

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題

メチルジサルファイドのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する繁殖阻害試験

試験番号

8 B 7 0 6 G

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No. 202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験および繁殖試験」（1984年4月採択）の改訂版であるガイドライン No. 211「オオミジンコ繁殖試験」（1997年4月提案）に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： メチルジサルファイド
- 2) 暴露方式： 半止水式（毎日、試験液の全量を交換），水面をテフロンシートで密閉
- 3) 供試生物： オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間： 21日間
- 5) 試験濃度（設定値）： 対照区， 0. 100, 0. 180, 0. 320, 0. 560, 1. 00 mg/L
(公比 1. 8)
- 6) 試験液量： 1 容器（連）に付き 80 mL
- 7) 連数： 10容器（連）／濃度区
- 8) 供試生物数： 10頭／濃度区（1 連に付き 1 頭）
- 9) 試験温度： 20±1℃
- 10) 照明： 16時間明／8時間暗
- 11) 被験物質の分析： GC法

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

各濃度区の被験物質実測濃度の設定値に対する割合は調製時で 91～112%，換水前で 46～102%であった。換水前における濃度減少の原因は試験液中での生分解，ミジンコへの移行または系からの揮散によるものと推察した。暴露期間中に測定した試験液の被験物質濃度が，設定値の±20%を越えたため，各影響濃度の算出には実測値（時間加重平均値）を採用した。

2) 21 日間の親ミジンコの半数致死濃度 (LC50) :

> 0.934 mg/L (95%信頼限界 : 算出不可)

3) 21 日間の 50% 繁殖阻害濃度 (EC50) :

0.233 mg/L (95%信頼限界 : 0.213～0.255)

4) 21 日間の最大無作用濃度 (NOEC) :

0.089 mg/L

5) 21 日間の最小作用濃度 (LOEC) :

0.159 mg/L